

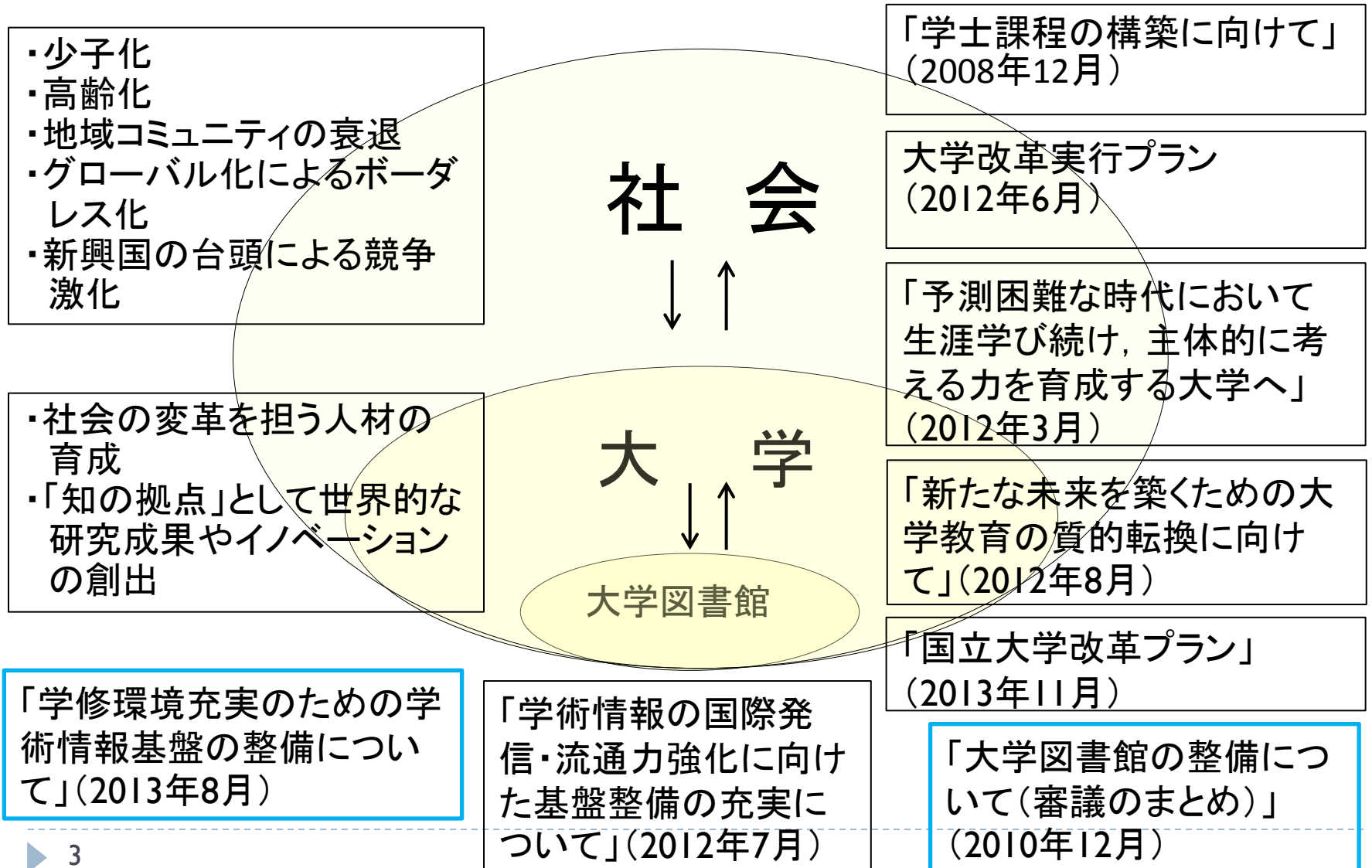
ラーニング・コモンズ 大学図書館の学習支援

筑波大学附属図書館 加藤信哉 skato@tulips.tsukuba.ac.jp

本日の講演の流れ

- ▶ はじめに
- ▶ ラーニング・コモンズの概要
- ▶ ラーニング・コモンズの現状
- ▶ 我が国のラーニング・コモンズ
- ▶ 筑波大学ラーニング・スクエア
- ▶ 今後の図書館の学習支援を考えるために
- ▶ おわりに

大学図書館の置かれている位置



環境の変化と大学図書館の課題

▶ 電子化の進展と学術情報流通の変化

✓インターネット上の多様な情報資源に対して、学生、教職員が容易にアクセス可能となる等情報環境が変化

✓学術情報流通においても主要な海外学術雑誌が電子ジャーナルとして普及

▶ 大学を巡る環境変化

✓18歳人口の減少，国立大学の法人化，国公立大学の基盤的経費の削減傾向等により，我が国の大学は全体として厳しい環境

✓大学図書館は，学習，教育，研究活動の変化や新しい動向に対応し，より効率的な支援の展開とともに，利用者の情報リテラシー能力の向上に積極的に関与することが望まれる。

大学図書館に求められる機能・役割（1/2）

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与

2. 研究活動に即した支援と知の生産への貢献

3. コレクション構築と適切なナビゲーション

4. 他機関・地域との連携並びに国際貢献

大学図書館に求められる機能・役割（2/2）

1. 学習支援及び教育活動への直接の関与

ア. 学習支援

- ・ 学生が自ら学ぶ学習の重要性が再認識され、ラーニング・コモンズ、大学図書館職員等によるレファレンスサービス、学習支援が重要。

イ. 教育活動への直接の関与

- ・ 情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める情報リテラシーは、大学図書館が主体となって取り組むことが求められており、カリキュラム開発や実施を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼務するなどして、直接授業を担当することも視野にいれるべき。また、e-Learningへの貢献が期待される。

本日の講演の流れ

- ▶ はじめに
- ▶ ラーニング・コモンズとは
- ▶ ラーニング・コモンズの現状
- ▶ 我が国のラーニング・コモンズ
- ▶ 筑波大学ラーニング・スクエア
- ▶ 今後の図書館の学習支援を考えるために
- ▶ おわりに

ラーニング・コモンズ (Learning Commons)

- 定義 (1)

複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。 (審議まとめ)

- 定義 (2)

主として学生を対象とし、学習支援のための設備・施設、人的サービス、資料を総合的にワンストップで提供する学習支援空間である。

「総合的にワンストップで」提供する学習支援には、これまで伝統的に大学図書館で提供されてきた学習支援に限定されるものではなく、大学におけるあらゆる学習支援が包含される。どのような学習支援を総合的に提供するかは、図書館内ではなく、大学の方針やミッションによって決定されるものである。

また、総合的な学習支援を実現するためには、図書館外の実務との連携・協働や、学生アシスタントの活用が不可欠である。 (呑海・溝上)

インフォメーション・コモンズとは

- 図書館の情報サービスの一つのモデル
- 電子情報資源，マルチメディア，印刷資源，各種のサービスを学生に提供
- 図書館中心の観点で図書館が実施するもの
- 伝統的なサービスの利用と高度の技術的環境

ラーニング・コモンズとは

- インフォメーション・コモンズからの移行
- 利用者へ知識を「伝達」というより，コモンズのスタッフと利用者によって，利用者の自立的な学習による知識の「創造」を目指すもの
- インフォメーション・コモンズのすべての側面を含むとともに拡張し，増進しているもの
- 機関全体のビジョンや使命と明確に整合

情報サービスではなく利用者サービス

- 論文を執筆し、授業の課題の回答を作成している学生に
 - ✓ 情報のアクセスや組織化 (図書館機能)
 - ✓ ソフトウェアや機器の利用 (IT機能)
 - ✓ 論文の作成や企画のまとめ (ライティング・センター機能) を

ワンストップ・サービスで提供

インフォメーション・コモンズとの違い

- インフォメーション・コモンズは大学の使命を支援するが、ラーニング・コモンズはそれを成立させる
- 学生の学習—教室や実験室で実際に何が起きているかという質問に重点的に取組み、大学の使命に十分に対応できるスペース設計の共同活動に敢然と取り組むことにかかわる

ラーニング・コモンズが出現した背景

- ここ10年間の動き（インフォメーション・コモンズの出現から約20年）
- 学部教育の新しいパラダイム
知識の伝達 → 知識の創造
- 大学図書館の競争相手の登場
アマゾン，グーグル，小売書店
- 大学図書館の利用者サービスの危機
入館者，参考質問の減少
- 「場としての図書館」運動
→ カフェの設置，開館時間の延長，無線LANの設置，魅力ある空間，飲食についての方針の変更，個人の研究用に設計された静寂なスペースの発想の放棄
- ネット世代の登場



多様化するニーズに応える新しい学習スペース

ラーニング・コモンズの構成要素

- **多様な人的支援の提供**

- ✓レファレンス・サービス，図書館・情報リテラシー教育，IT技術支援，論文作成指導

- **施設・設備の提供（後掲）**

- ✓広いテーブル，グループ作業スペース，コンピュータ・ネットワーク環境，ラウンジ・カフェ（併設）

- **資料・情報の提供**

- ✓電子ジャーナル，データベース，その他の電子情報資源，レファレンス資料等印刷資料

実現に向けての計画

- 学習に関連したビジョンを設定する
- 要求アセスメントを実施する
- 目標を設定する
- アセスメント計画を設計する
- 適切なパートナーを決定する
- 資源を定義し、獲得する
- 場所を決定する ← **最初に場所ありきではない**
- 利用者が行えることが何であればよいかを定義する
- 提供するサービスを定義する
- 担当者のニーズを決定する〔そしてそれから...〕
- フロアプランを作成する
- テクノロジー〔ネットワーク、ハードウェア、ソフトウェア〕を計画する
- 家具を選ぶ

ラーニング・コモンズの学内パートナー

- ▶ 図書館（ふつう先導するパートナー）
- ▶ 情報技術（ふつう先導するパートナー）
- ▶ 学部学術コンピュータ・センター（研究用コンピューティング）
- ▶ ライティング・センター
- ▶ キャリアセンター
- ▶ 学生相談

計画者への重要な質問

- インフォメーション・コモنزの目的は何か
- 教員や学生のどんなニーズに取り組むか
- 学習への結びつきを強調する場所にどんなプログラムを整えるか
- どのキャンパスの組織を巻き込み、どのように一緒に作業をするか
- どのようなハードウェアやソフトウェアや座席配置が必要か
- どのような担当者が必要か
- インフォメーション・コモنزと学習の結びつきをどのように促進するか
- いかにして成功を測定するか ← 最初から考えておく

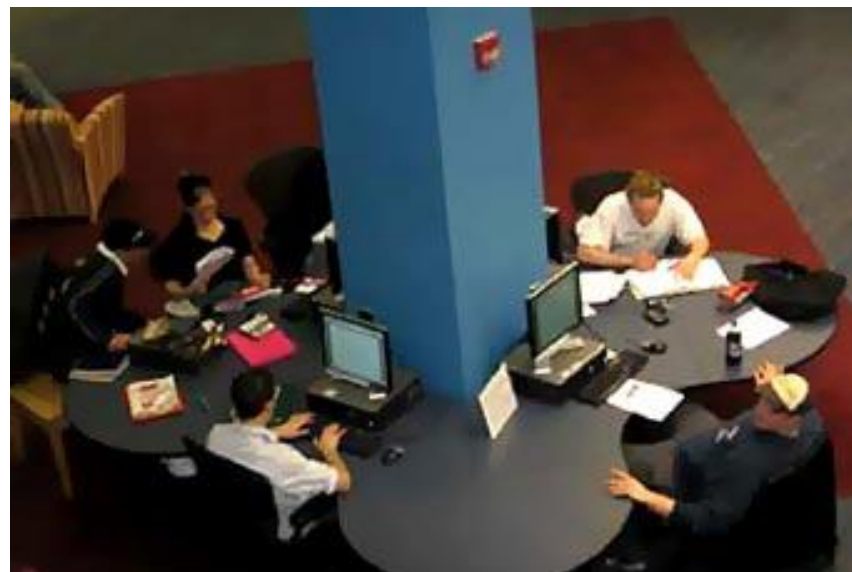
ラーニング・コモンズの施設・設備（1/6）

- コンピュータ・ワークステーション・クラスタ
- カウンター
- 共同学習スペース
- プレゼンテーション・サポート・センター
- FDのための教育テクノロジーセンター
- 電子教室
- ライティングセンターと他の大学サポート施設
- 会合・セミナー・レセプション・プログラムや文化イベントのためのスペース
- カフェとラウンジ・エリア

ラーニング・コモンズの施設・設備 (2/6)



コンピュータ・ワークステーション



クローバー型ワークエリア

ラーニング・コモンズの施設・設備 (3/6)



大規模グループ学習室



共同エリア

ラーニング・コモンズの施設・設備 (4/6)



サイバー・カフェ



マルチメディア・プレゼンテーション・センター

ラーニング・コモンズの施設・設備 (5/6)



学生教育テクノロジーラボ



円形の図書館教室

ラーニング・コモンズの施設・設備 (6/6)



大学相談・キャリアサービスカウンター 柔らかいすわり心地の座席

本日の講演の流れ

- ▶ はじめに
- ▶ ラーニング・コモンズの概要
- ▶ ラーニング・コモンズの現状
- ▶ 我が国のラーニング・コモンズ
- ▶ 筑波大学ラーニング・スクエア
- ▶ 今後の図書館の学習支援を考えるために
- ▶ おわりに

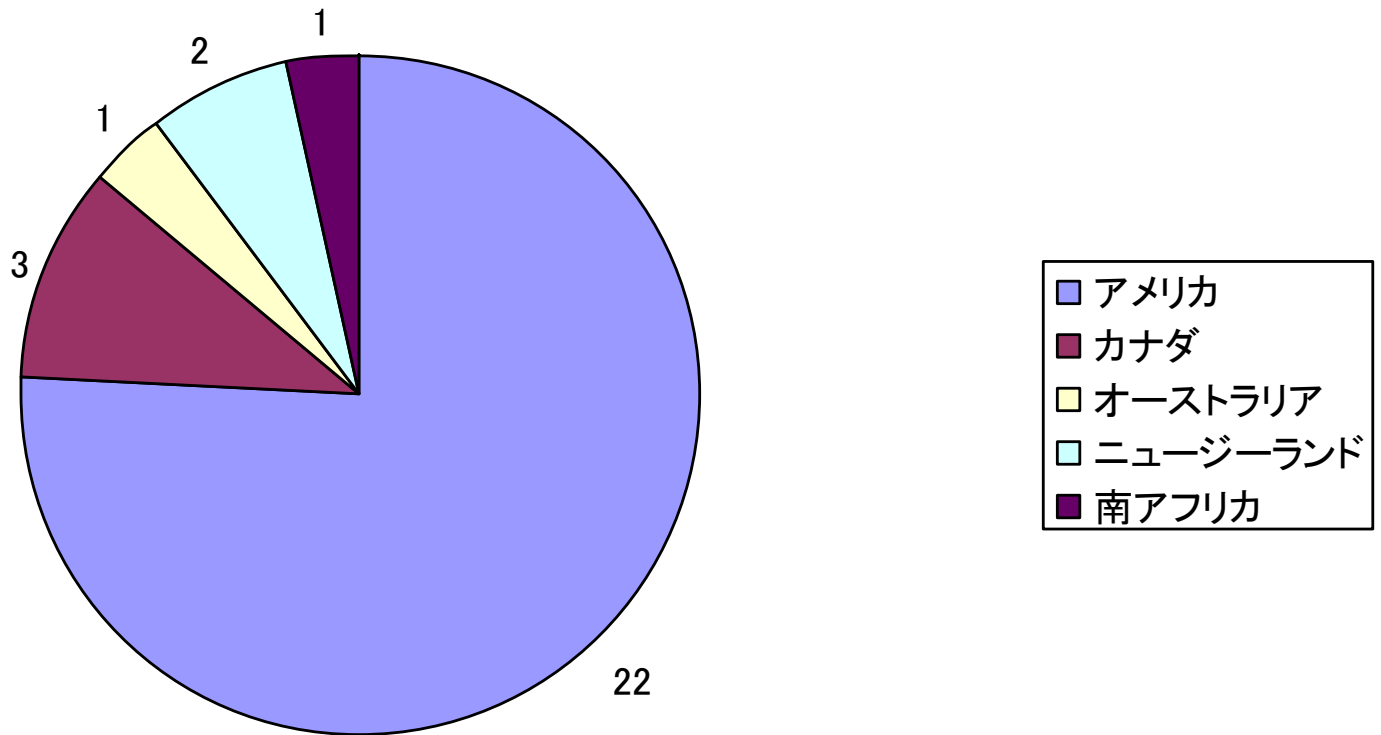
ラーニング・コモンズの現状

▶ 調査実施時期
2006年夏

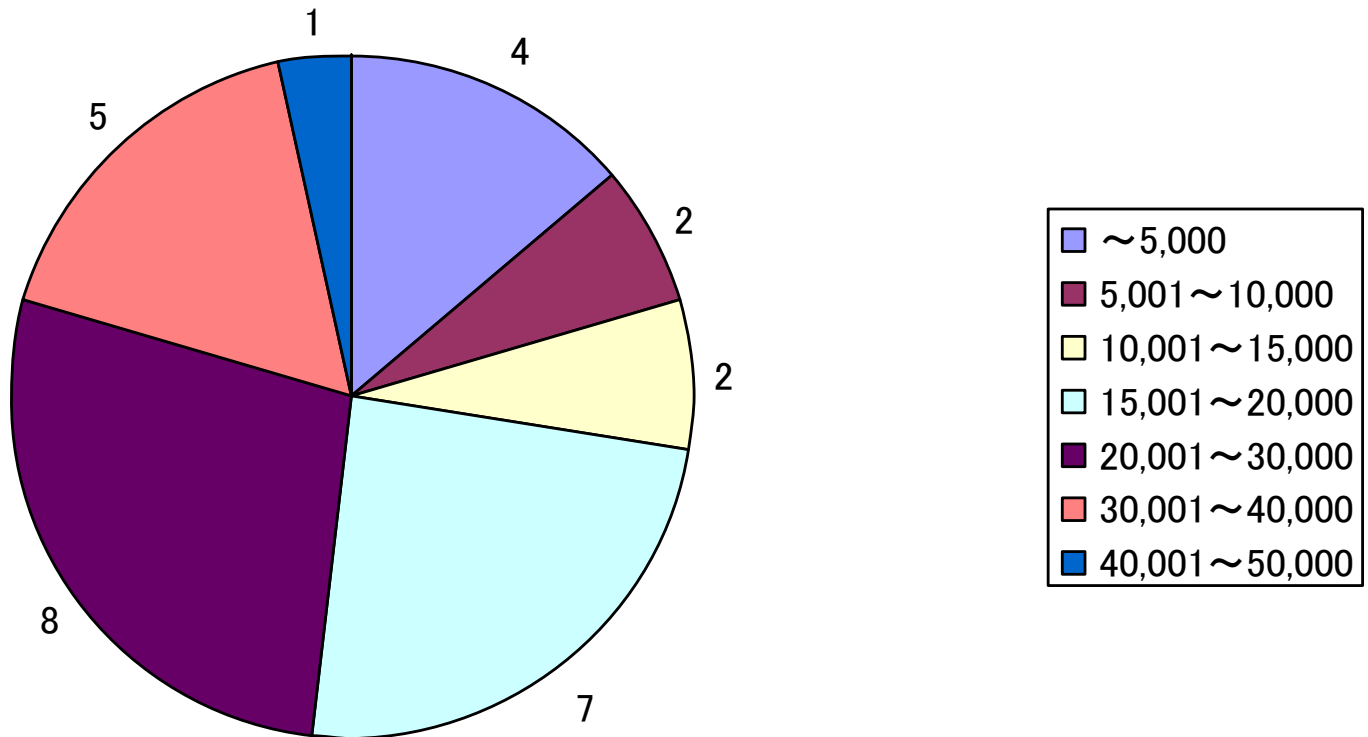
▶ 対象
29機関（アメリカ，カナダ，オーストラリア，
ニュージーランド，南アフリカ）

▶ 分析項目
9項目：国別，学生数，高等教育カーネギー分類，
設置年，面積，アクセス時間，
サービス時間，PC台数，利用者数

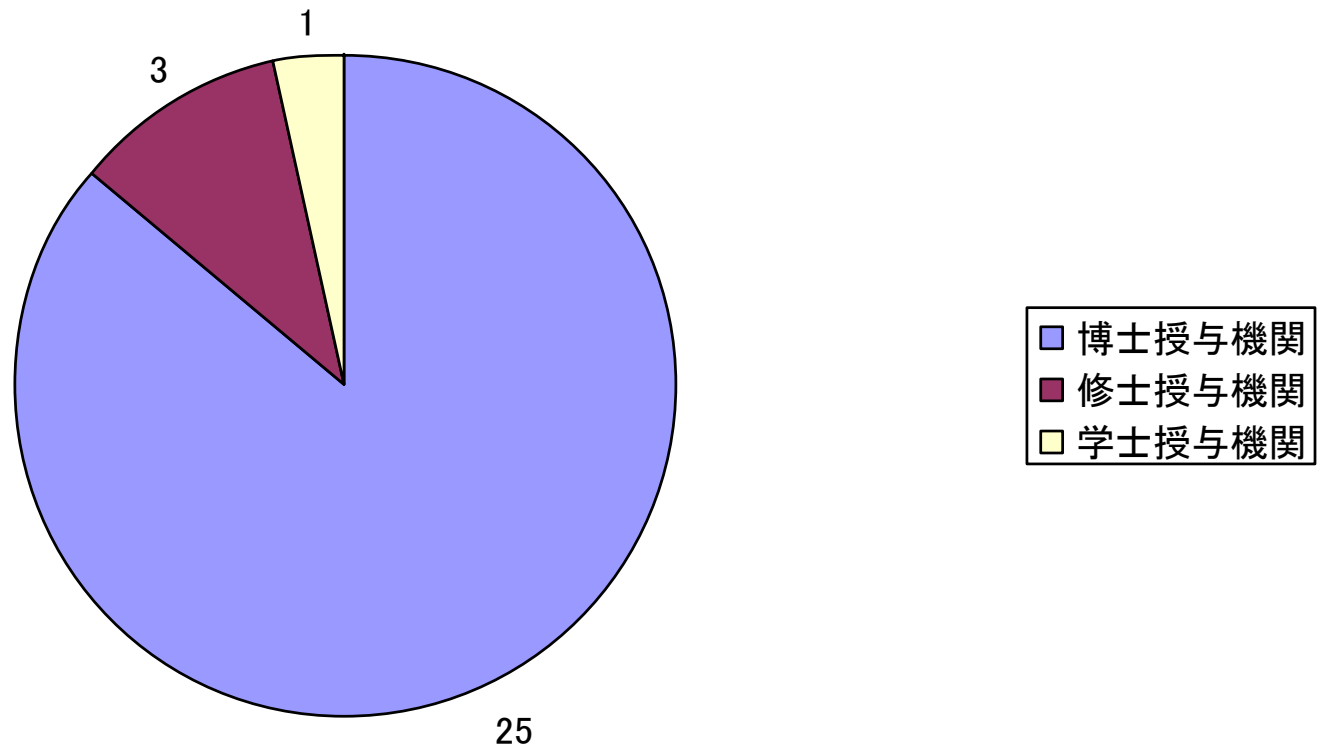
① 国別



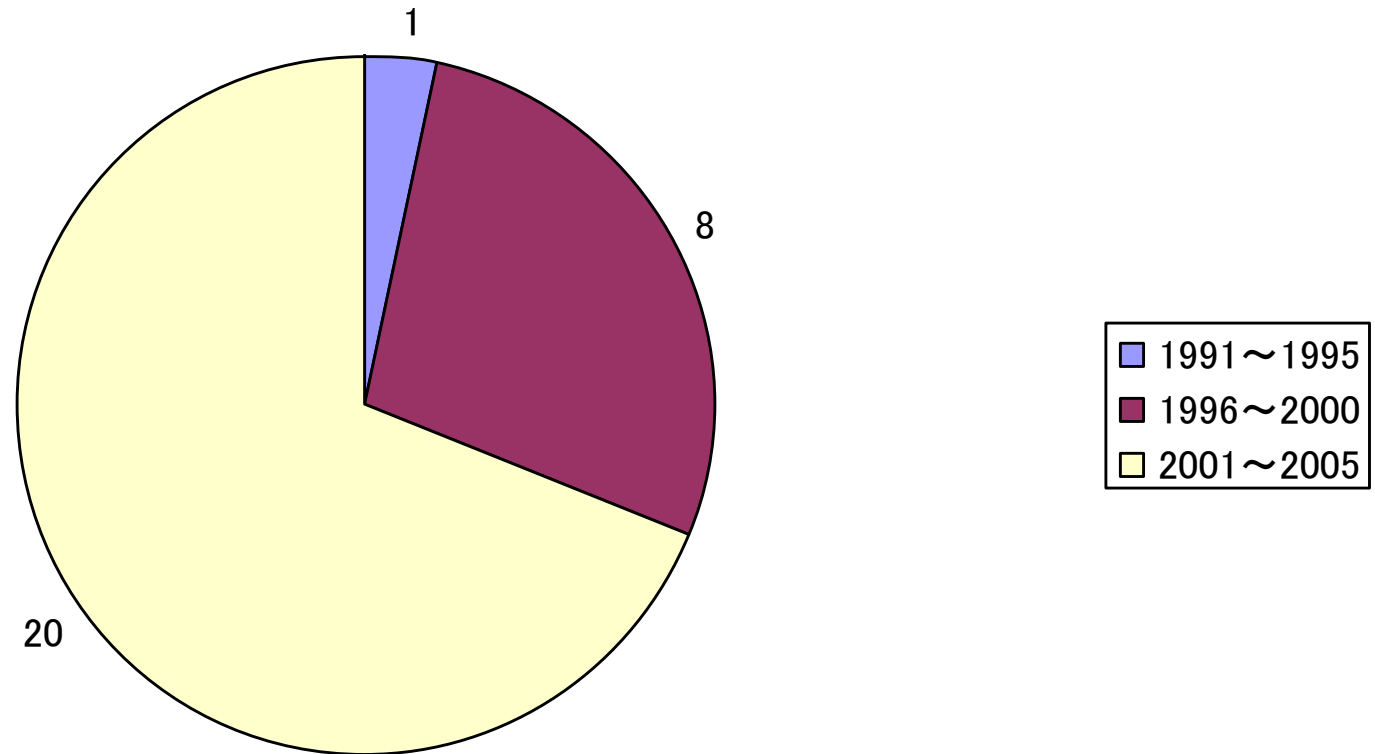
② 学生数（在籍者）



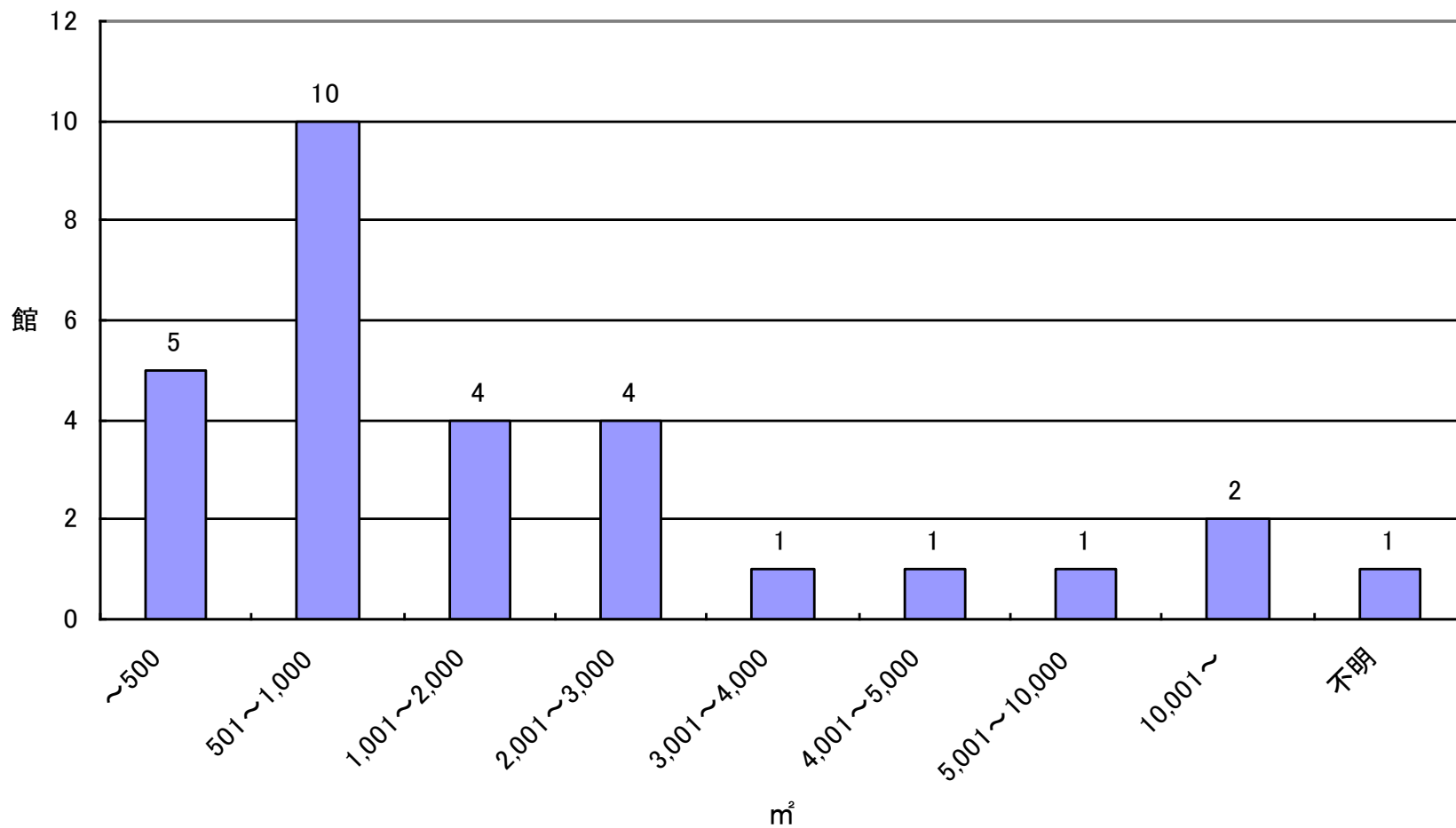
③ カーネギー高等教育機関分類



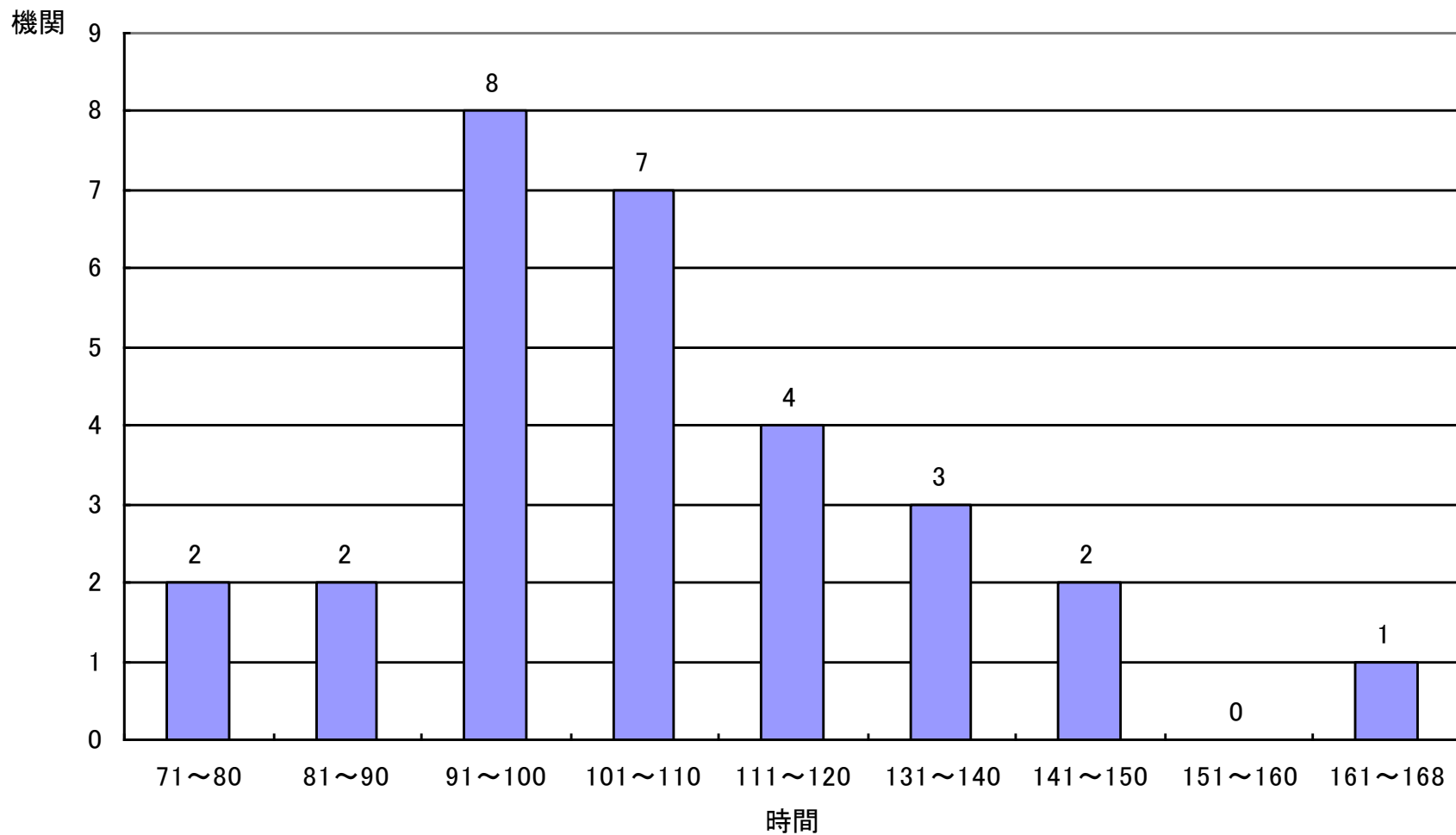
④ 設置年



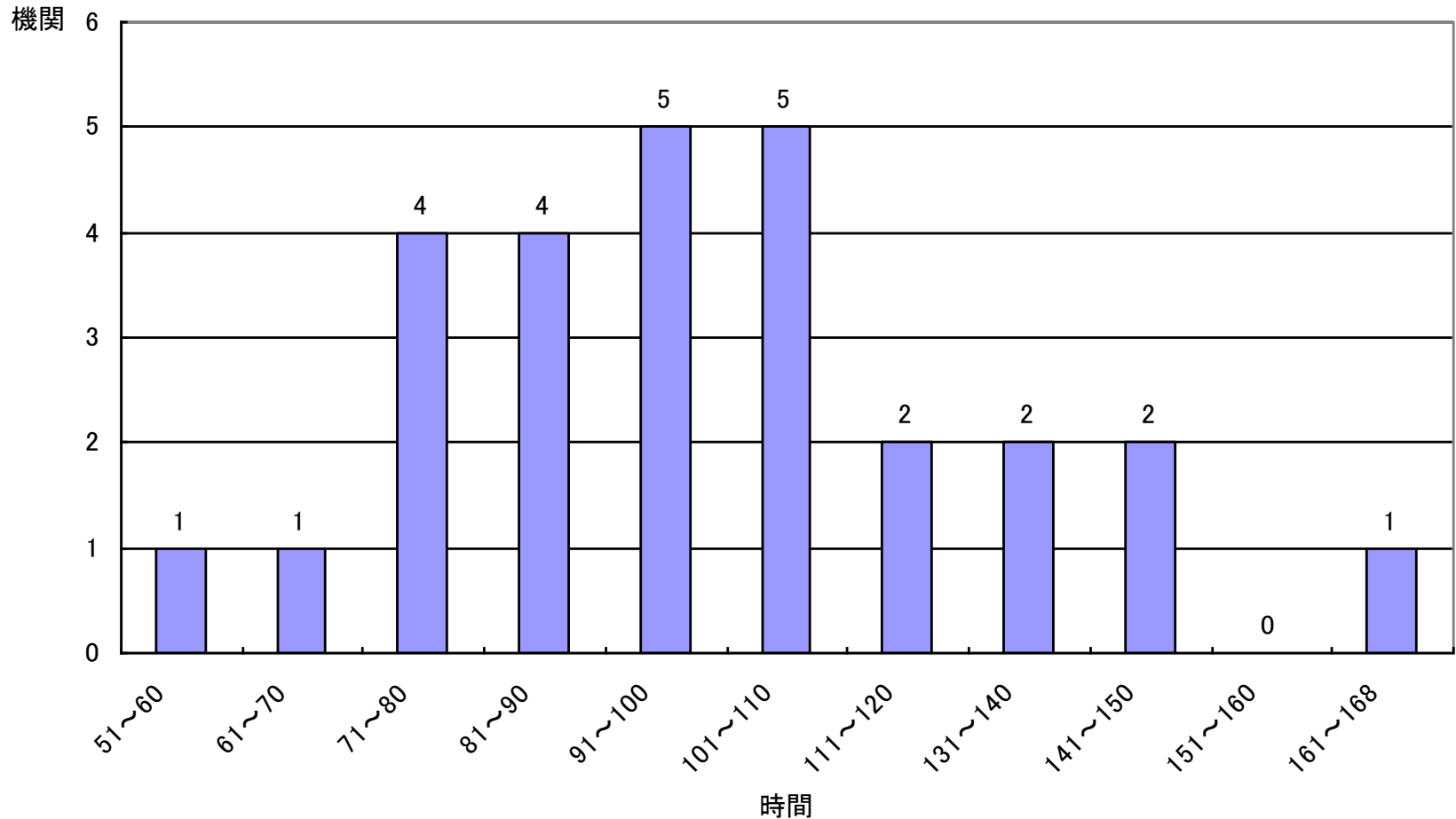
⑤ 面積



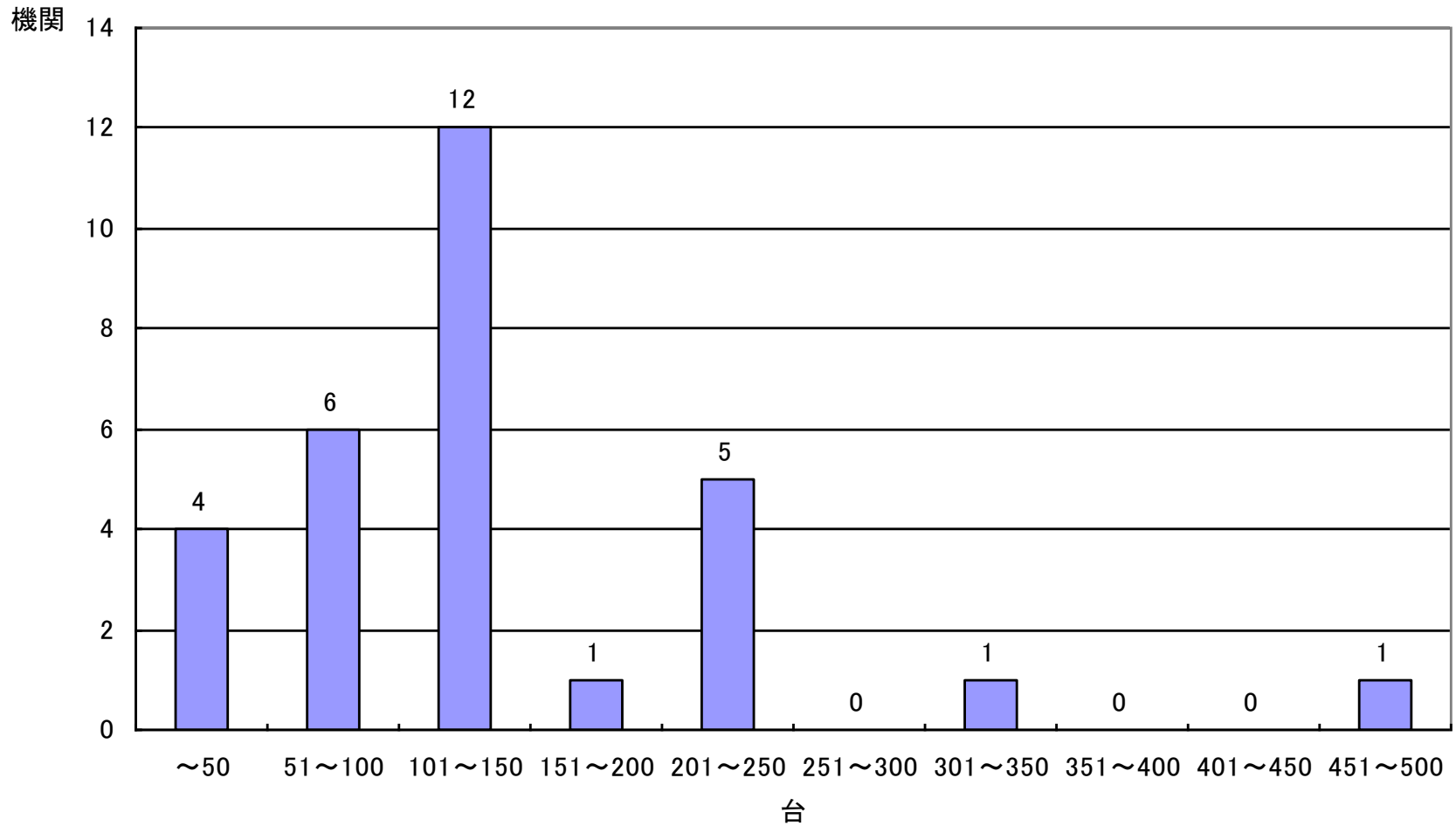
⑥ アクセス時間（単位：週）



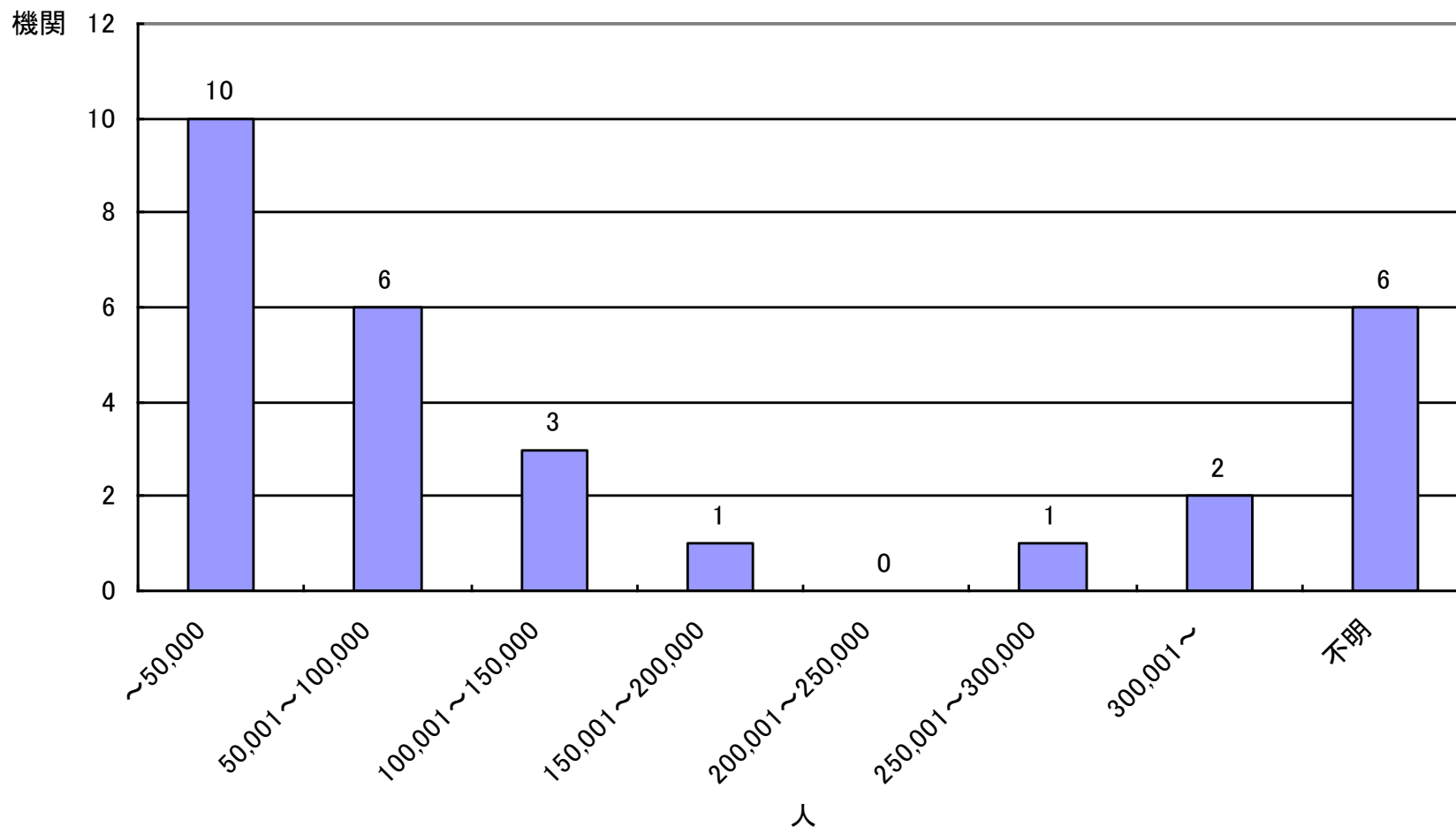
⑦ サービス時間（単位：週）



⑧ PC台数



⑨ 利用者数（単位：月）



新築の大学図書館（米国:2003-2009, 99館）で教育研究における図書館の役割を最もよく表していると思われているスペース

順位	スペース	回答数
1	図書館教室及び学習ラボ	37
2	グループ学習・協同スペース	26
3	ラーニング・commons	19
4	レファレンス・エリア／情報カウンター	10
5	学習エリア	9
6	貴重書／アーカイブ／専門コレクション	9
7	閲覧室	7
8	FDセンター	6
9	デジタルメディア作成センター	3
10	24時間利用エリア	3

新築の大学図書館（米国:2003-2009, 99館）で最も利用されているスペース

順位	スペース	回答数
1	グループ学習室	31
2	学習エリア	28
3	パブリックスペースのコンピュータ	18
4	ラーニング・コモンズ	16
5	コンピュータ・ラボ	10
6	カフェ	9
7	教室	5
8	会議室	4
9	柔らかい椅子	4
10	メディアセンター	3
	電子複写機	3

本日の講演の流れ

- ▶ はじめに
- ▶ ラーニング・コモンズの概要
- ▶ ラーニング・コモンズの現状
- ▶ 我が国のラーニング・コモンズ
- ▶ 筑波ラーニングスクエア
- ▶ 今後の図書館の学習支援を考えるために
- ▶ おわりに

ラーニング・コモンズ設置年表 (抄) ①

年	大学	名称	場所	備考
2000.4	公立はこだて未来大学			大学全体
2000.9	国際基督教大学		ミルドレッド・トップ・オスマー図書館	
2003.4	横浜国立大学		中央図書館	図書館全体
2006.4	広島文教女子大学		図書館	
2006.9	成蹊大学	プラネット, アトリウム	情報図書館	
2007.3	名古屋学院大学	LearningCommons	学術情報センター	名古屋キャンパス
2007.4	お茶の水女子大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館	
2008.4	筑波大学	図書館情報学図書館ラーニングコモンズ	図書館情報学図書館	2010.4: 図書館内に移転
2008.4	東京女子大学	マイライフ・マイライブラリー	図書館	
2009.1	京都大学	学習室24	附属図書館	
2009.3	筑波大学	ラーニング・スクエア	中央図書館	
2009.3	名古屋大学	名古屋大学中央図書館ラーニング・コモンズ	中央図書館	2009.12: 完全オープン
2009.4	大阪大学	ラーニング・コモンズ	理工学図書館	
2009.4	昭和女子大学・短期大学部	ラーニングコモンズ	図書館	
2009.4	広島工業大学	ラーニングコモンズ	講義棟	図書館と別
2009.4	ソニー学園湘北短期大学		4号館	
2009.6	大阪大学	ラーニング・コモンズ	総合図書館	
2009.6	徳島大学		附属図書館本館	
2009.8	早稲田大学	スチューデントコモンズ	中央図書館	
2009.10	上智大学	ラーニング・コモンズ	中央図書館	
2009.11	九州大学	きゅうとコモンズ	本館	

▶ 38 出典：小山憲司．国内の大学図書館におけるラーニング・コモンズの現状．ラーニング・コモンズ，2012，p.222-269．ほか

ラーニング・コモンズ設置年表 (抄) ②

年	大学	名称	場所	備考
2010.3	三重大学	三重大学ラーニングコモンズ	共通教育棟3号館	
2010.4	新潟大学	ラーニング・コモンズ	中央図書館	2013.4:中央図書館リニューアル
2010.4	新潟大学	ラーニング・コモンズ	医歯学図書館	
2010.4	金沢大学	KULic-α	中央図書館	
2010.4	静岡大学	ハーベストルーム	附属図書館(静岡館)	
2010.4	奈良女子大学	ラーニング・コモンズ	図書館	
2010.4	広島大学	BIBLA[ビブラ]	中央図書館	
2010.4	鳥取大学	ラーニング・コモンズ	中央図書館	
2010.4	大正大学	大正大学ラーニングコモンズ	7号館(教室棟)2階	図書館と別
2010.4	大妻女子大学	ラーニングコモンズ	千代田キャンパス図書館棟	
2010.4	武蔵野美術大学		美術館・図書館	
2010.9	名古屋学院大学		瀬戸キャンパス図書館	
2010.10	法政大学	ラーニングコモンズ	富士見坂校舎	
2011.4	千葉大学	アカデミック・リンク・センター	附属図書館	
2012.1	首都大学東京	ラーニング・コモンズ	図書館	
2012.5	明治大学	ラーニングコモンズ	和泉図書館	
2012.7	福岡大学	ラーニング・コモンズ	図書館	
2012.12	東北大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館本館	
2013.4	同志社大学	ラーニング・コモンズ	良心館	図書館と別

ラーニング・コモンズ設置年表 (抄) ③

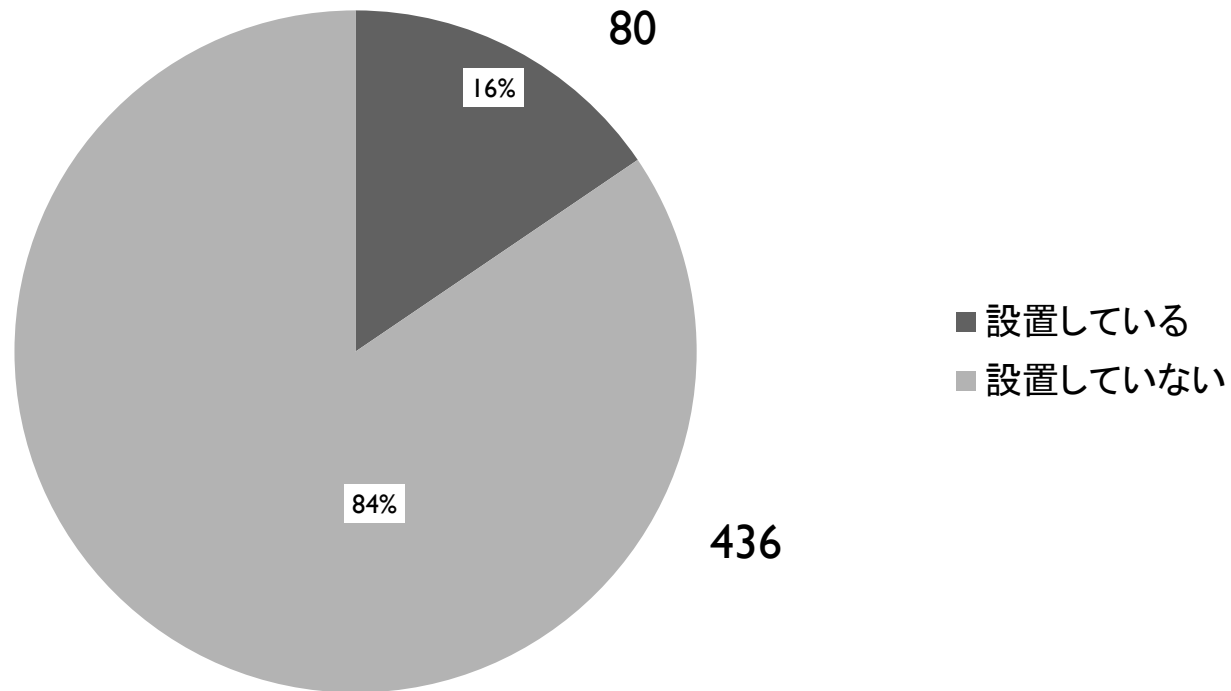
2011	福井工業大学	ラーニングコモンズ	図書館	
2011.9	文教大学	ラーニングスクエア	湘南図書館	
2011.4	立命館大学アジア太平洋大学	APU Learning Commons	総合情報センター	
2011.11	九州工業大学	ラーニングコモンズ	附属図書館	
2011.11	北陸先端科学技術大学院大学	ラーニング・コモンズJ-BEANS	図書館	
2012.1	宮崎大学	ラーニングコモンズ	図書館	
2012.4	大阪府立大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館	
2012.4	福島大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館	
2012.11	兵庫教育大学	ラーニングコモンズPAO	附属図書館	
2013	神戸市看護大学	ラーニング・コモンズ	図書館	
2013.4	新潟大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館	拡充
2013.4	浜松医科大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館	
2013.4	広島修道大学	ラーニング・コモンズ	図書館	
2013.9	創価大学	SPACe		図書館と別
2013.10	愛知学院大学	ラーニング・コモンズ	図書館情報センター	
2014.1	久留米工業大学	ラーニングコモンズ	図書館	
2014.3	朝日大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館本館	
2014.3	皇學館大學	ラーニング・コモンズ	図書館	
2014.3	清泉女子大学	ラーニングコモンズ		図書館と別

ラーニング・コモンズ設置年表 (抄) ④

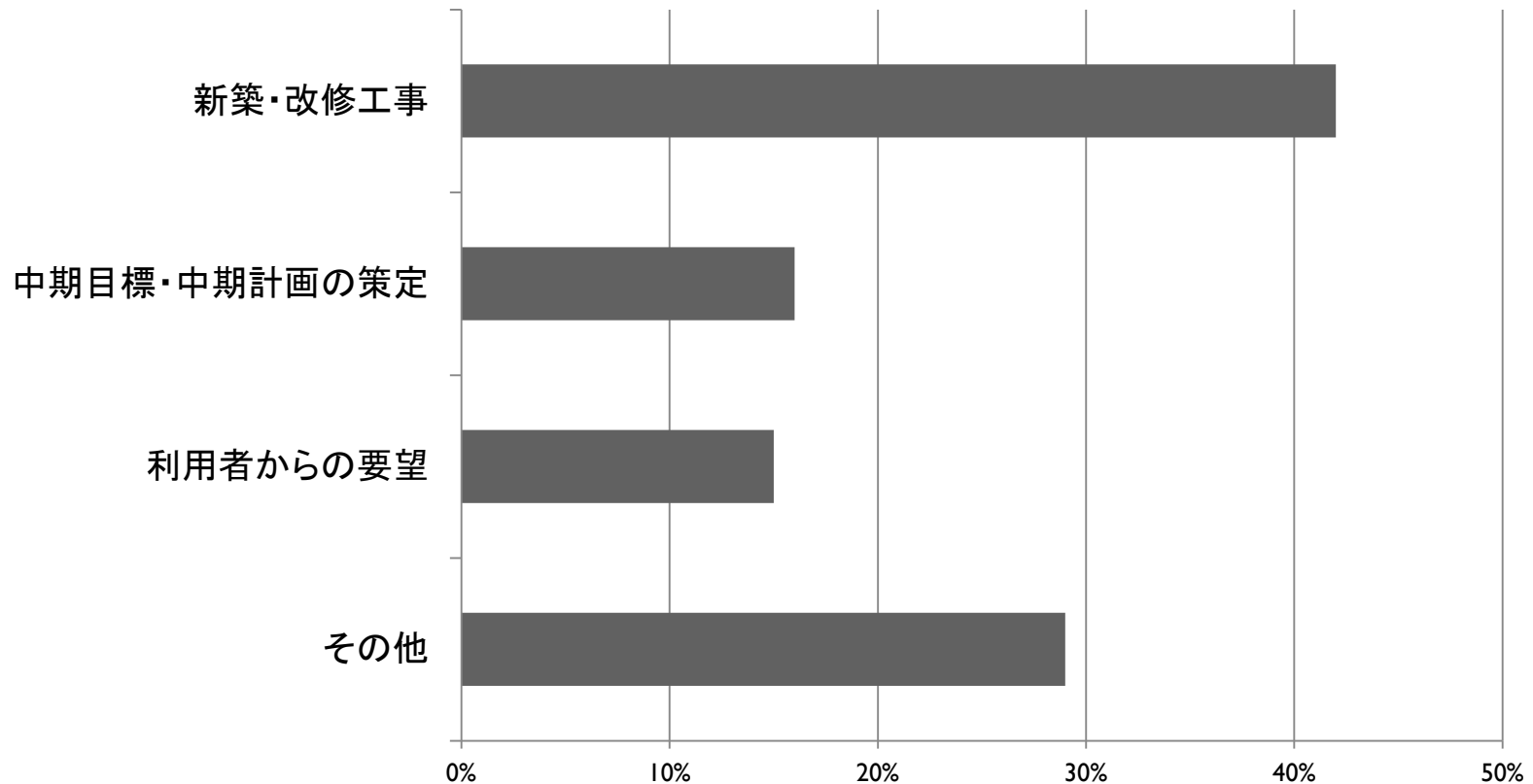
2014.4	京都産業大学	ラーニング・コモンズ	雄飛館	図書館と別
2014.4	京都大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館1階	
2014.4	立教大学	メーザー・ラーニング・コモンズ	メーザーライブラリー記念館新館	
2014.4	関西学院大学	ラーニング・コモンズCReateE	西宮上ヶ原キャンパス	図書館と別
2014.4	専修大学	ラーニング・コモンズ	図書館神田5号館	
2014.4	神戸大学	ラーニングコモンズ	附属図書館社会科学系図書館	
2014.4	広島国際大学	ラーニング・コモンズ	東広島キャンパス	図書館と別
2014.4	亜細亜大学・亜細亜大学短期大学部	ラーニングコモンズ	太田耕造記念館2階	図書館と別
2014.4	大阪工業大学	ラーニングコモンズ		図書館と別
2014.4	神戸市外国語大学	ラーニングコモンズ	学術情報センター	
2014.4	京都華頂大学	ラーニング・コモンズ	図書館	
2014.6	大阪観光大学	ラーニングコモンズ	図書館	
2014.6	金城学院大学	ラーニングコモンズ		図書館と別
2014.7	就実大学・就実短期大学	ラーニングコモンズ	図書館	
2014.9	大東文化大学	ラーニング・コモンズ	板橋図書館	
	宇都宮大学	ラーニング・コモンズ	基盤教育センター	図書館と別
	淑徳大学	ラーニング・コモンズ	附属図書館	
	浦和大学・浦和大学短期大学部	ラーニング・コモンズ	図書・情報センター	
	大阪電気通信大学	ラーニングコモンズ		図書館と別
	群馬大学	ラーニングコモンズ「アゴラ」	総合情報メディアセンター	
	長崎大学	ラーニングコモンズ	図書館	
	県立広島大学	ラーニングコモンズ	図書館	

大学図書館におけるラーニング・ commons の現状

① 設置状況 (N=516)

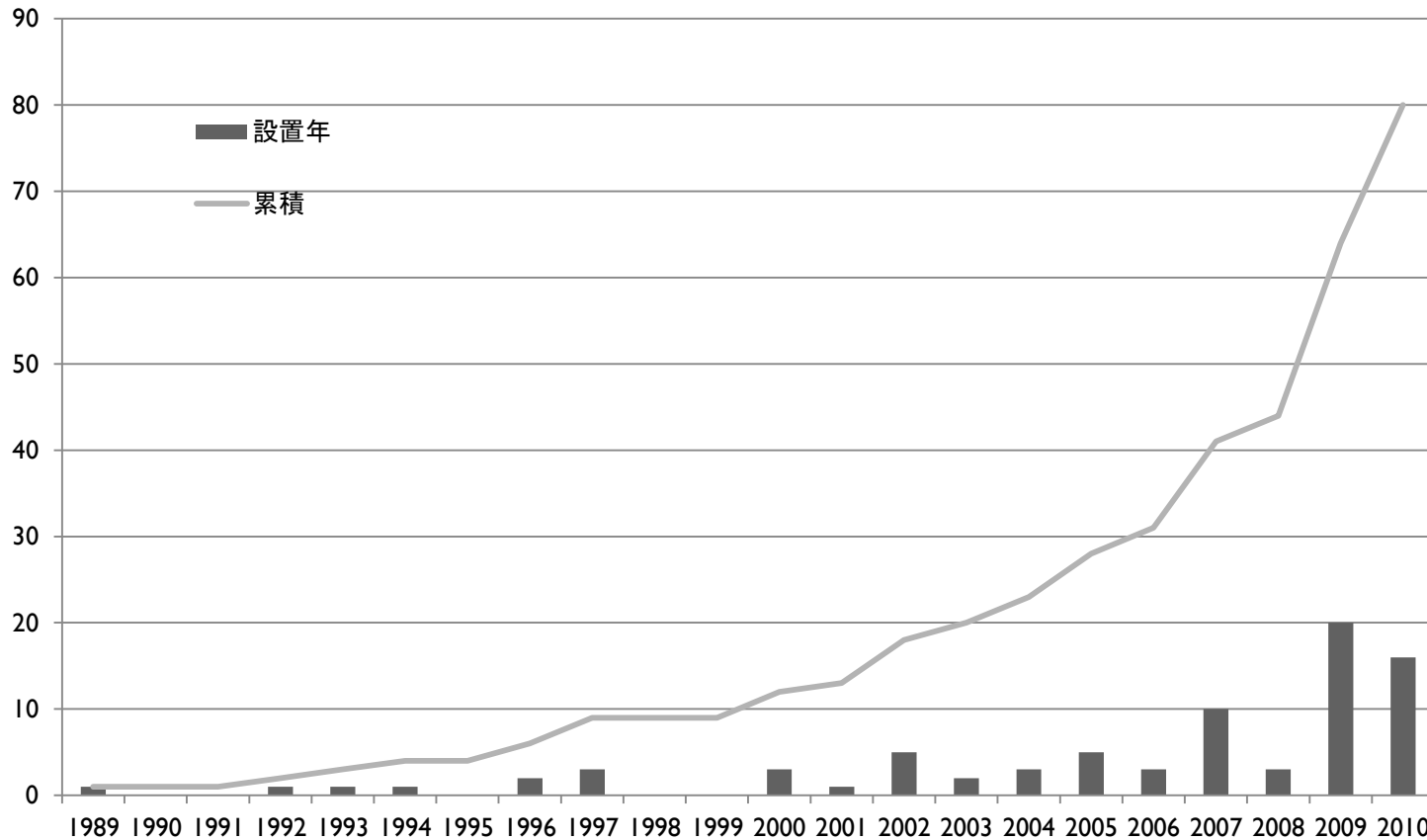


大学図書館におけるラーニング・ commons の現状 ② 設置理由 (N=80) 2010年

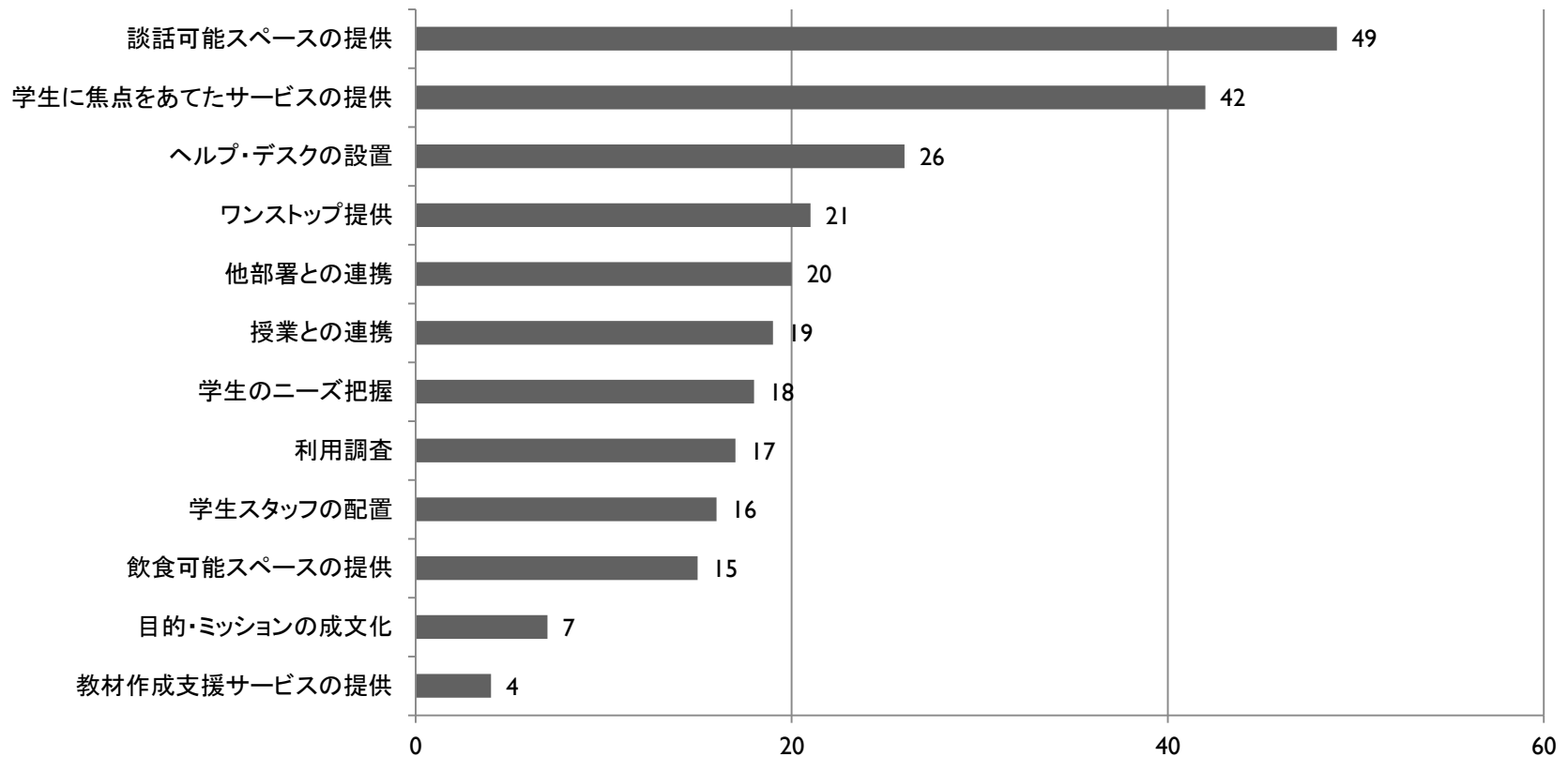


大学図書館におけるラーニング・ commons の現状

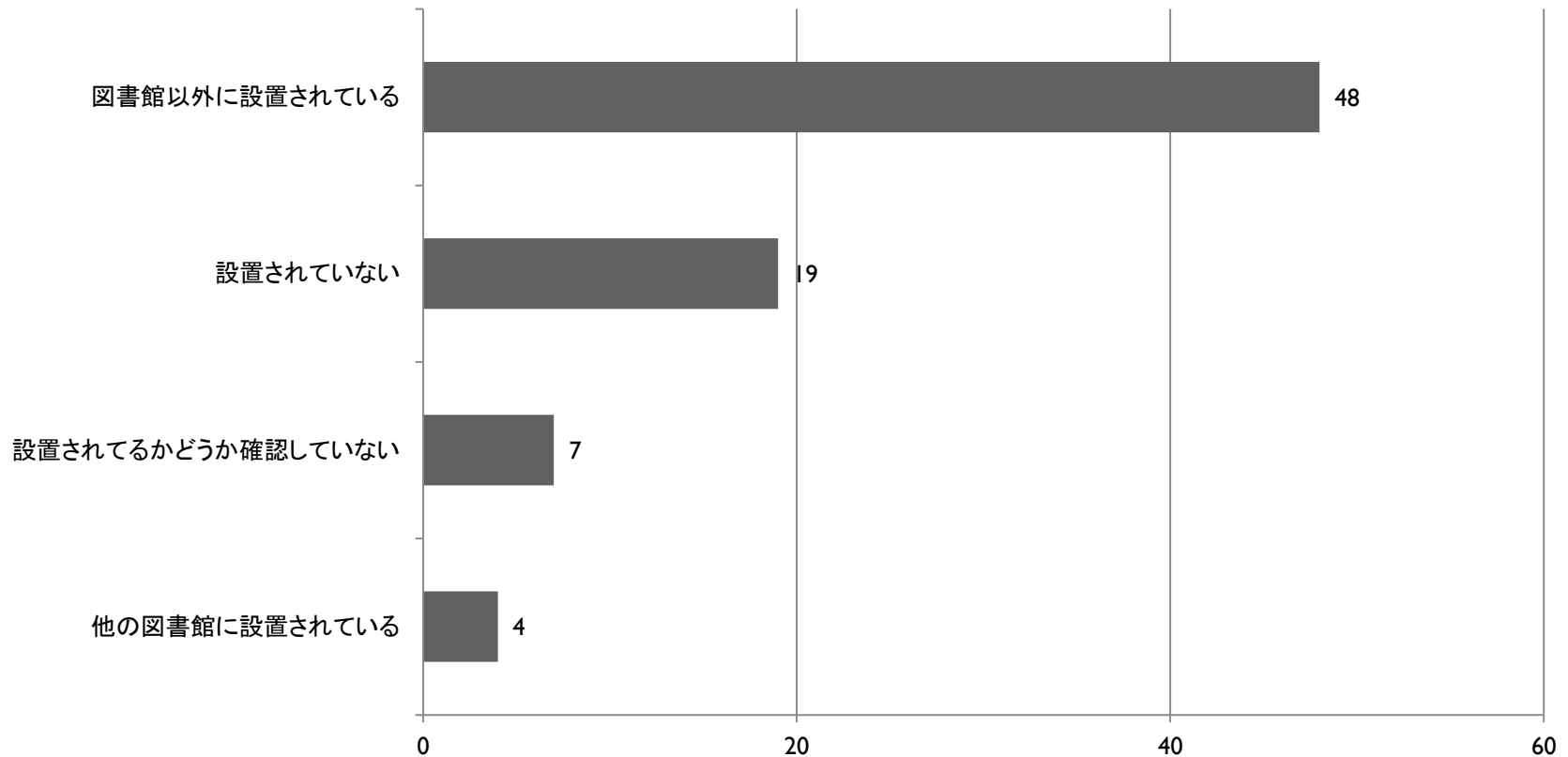
③ 設置年 (N=80)



大学図書館におけるラーニング・ commons の現状 ④ 構成要素 (N=80)

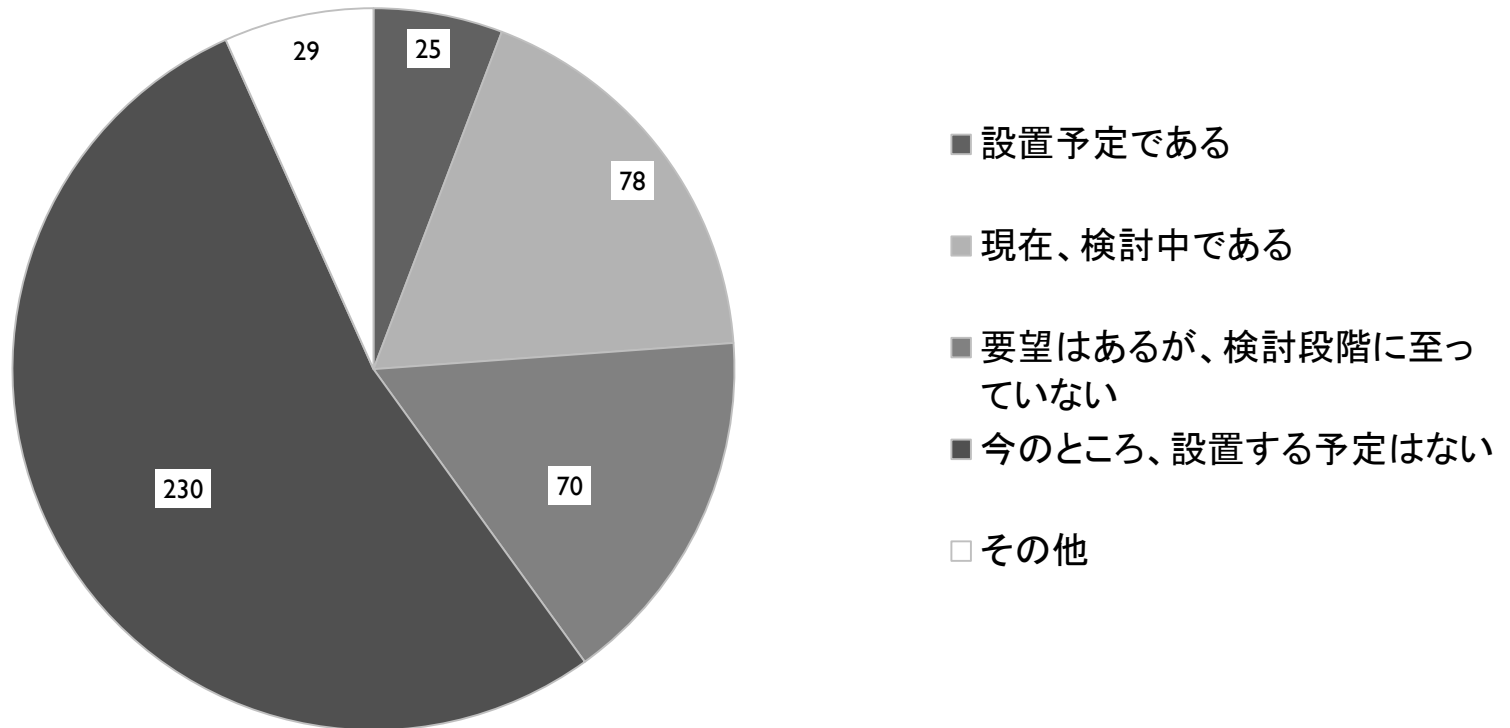


大学図書館におけるラーニング・コモンズの現状 ⑤ 図書館以外の学習支援空間 (N=80)

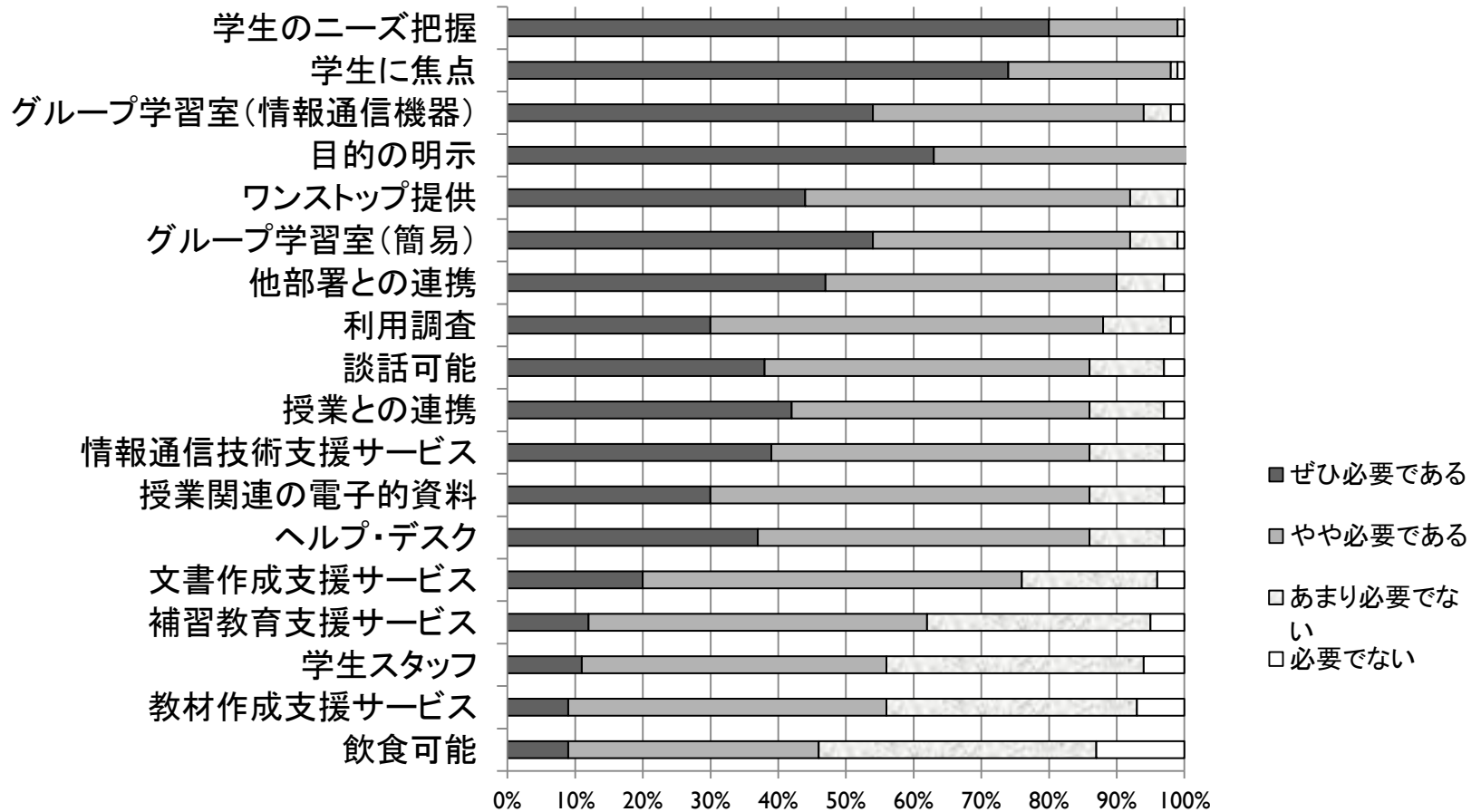


大学図書館におけるラーニング・ commons の現状

⑤ 設置予定 (N=432)



大学図書館におけるラーニング・ commonsの現状 ⑥ 必要な要素 (N=432)



大学図書館におけるラーニング・コモنزの現状 ⑦ 課題[自由記述まとめ]

▶ ラーニング・コモنزに関する考え方

- ・これまでの伝統的な大学図書館サービスに新しい視野を与え変化をもたらすもの
- ・ラーニング・コモنزそのものが各大学のミッションや状況に呼応したものでなければならず、かつ変化していくもの
- ・ラーニング・コモنزの設置に否定的
- ・図書館に新たな学習支援空間を設置する必要性がない

▶ ラーニング・コモنزの設置に当たっての課題

- ・人的・財政的理由から導入が難しい
- ・学内の図書館以外から理解が得られない

▶ 学生のニーズ・学生との協働

- ・利用者のニーズに合わせた運営の必要性
- ・目標としての学生参加型の運営とその難しさ

▶ 他部署との連携

- ・大学全体の学習支援の中での図書館の位置付けの検討
- ・図書館外の職員との連携の重要性

本日の講演の流れ

- ▶ はじめに
- ▶ ラーニング・コモンズの概要
- ▶ ラーニング・コモンズの現状
- ▶ 我が国のラーニング・コモンズ
- ▶ 筑波大学ラーニング・スクエア
- ▶ 今後の図書館の学習支援を考えるために
- ▶ おわりに

筑波大学附属図書館の概要（1/3）

来館したくなる図書館

筑波大学附属図書館は、開かれた大学図書館として地域社会及び国内外の研究・教育機関と連携し、学術情報の中枢拠点として機能することを目標に活動を続けています。

附属図書館は、中央図書館と4つの専門図書館とが一元的な管理体制のもとに運営され、資料の集中管理と全面開架方式を採用し、土・日・祝日の開館、充実したレファレンスサービス、Webによる各種サービスの提供と、図書館ボランティア活動の支援などを行っています。

今後も充実した資料の収集とサービスの拡充に努め「来館したくなる図書館」、「頼られる図書館」を目指して継続的なサービス改善を図っていきたいと考えています。

筑波大学附属図書館の概要 (2/3)

沿革

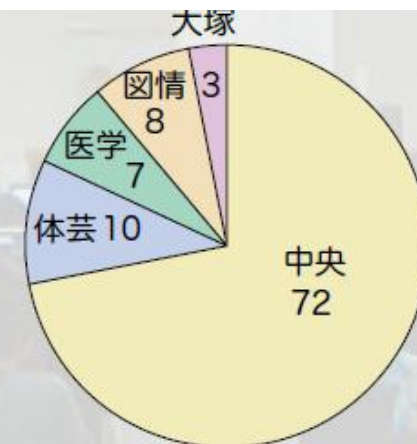
- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|----------------------------|
| 1973.10 | 筑波大学開学・附属図書館設置 | 2008. 3 | 中央図書館にコーヒーショップ開店 |
| 1974. 7 | 体育・芸術図書館開館 | 2008. 7 | 中央図書館本館耐震改修工事開始 |
| 1978. 1 | 医学図書館開館 | 2009. 8 | 中央図書館新館2階スタディスペースオープン |
| 1979.10 | 中央図書館開館 | 2010. 2 | ディスカバリーサービス（次世代OPAC）導入 |
| 1989. 6 | 大塚図書館開館 | 2010. 3 | 大塚図書館改築工事開始 |
| 1995. 3 | 中央図書館新館(増築)竣工 | 2011. 1 | 中央図書館本館耐震改修工事竣工 |
| 1995. 6 | 附属図書館ボランティア導入 | 2011. 3 | 東日本大震災により被災 |
| 1998. 1 | 電子図書館システム導入 | 2011. 8 | 大塚図書館改築工事竣工 |
| 2002.10 | 図書館情報大学との統合
図書館情報学図書館開館 | 2011. 9 | 中央図書館ラーニング・スクエアオープン |
| 2004. 4 | 法人化に伴い事務組織改組 | 2012.11 | 中央図書館開館時間延長試行（8:30-9:00） |
| 2005. 5 | 研究開発室設置 | 2013. 1 | 中央図書館開館時間延長試行（22:00-24:00） |
| 2006. 3 | つくばリポジトリ公開 | 2013. 9 | 医学図書館耐震改修工事開始 |
| | | 2013.10 | 附属図書館Facebook開始 |

筑波大学附属図書館の概要 (3/3)

利用者数 * (平成24年度)

入館者総数	936,079人(2,898人/日)
貸出利用者数	124,642人(385人/日)
貸出冊数	324,780冊(1,005冊/日)

* 震災復旧工事のため、平成24年5月20日まで体育・芸術図書館は閉館。



施設 (平成25年5月1日現在)

	総面積㎡	閲覧スペース㎡	座席数	研究個室	セミナー室
中央図書館	19,330	8,829	1,018	39	4
体育・芸術図書館	3,518	2,362	347	4	2
医学図書館	2,793	1,904	349	6	2
図書館情報学図書館	2,798	2,116	245	0	2
大塚図書館	1,552	1,155	130	0	3
合計	29,991	16,366	2,089	49	13

筑波大学ラーニング・スクエアの運営①

- 経緯

- 中央図書館の耐震改修工事(平成20年度～22年度)に合わせて館内のゾーニング見直し
- 本館2階にラーニング・コモンズ(ラーニング・スクエア 675m²)を設置, 平成23年9月からサービス開始

- 運営体制

- 館内に学修支援推進WG(当初はラーニング・コモンズ検討WG)を設置し, 具体的な学修支援活動に着手

- コンセプト

- 「知識の伝達」から「知的創造活動と交流・協働のトータルサポート」へ

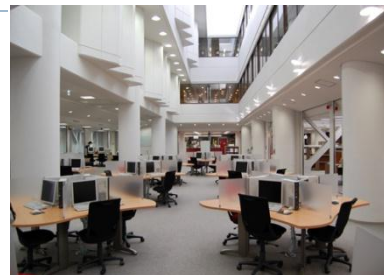
中央図書館のゾーニング（多様な学修空間）



閲覧席
（本館3～5階）



ラウンジ
（本館3～5階）



PCスペース
（本館2階）



セミナー室（本館2, 3階）



「スタディスペース」
（新館2階）



グループ学習席
（本館2階）



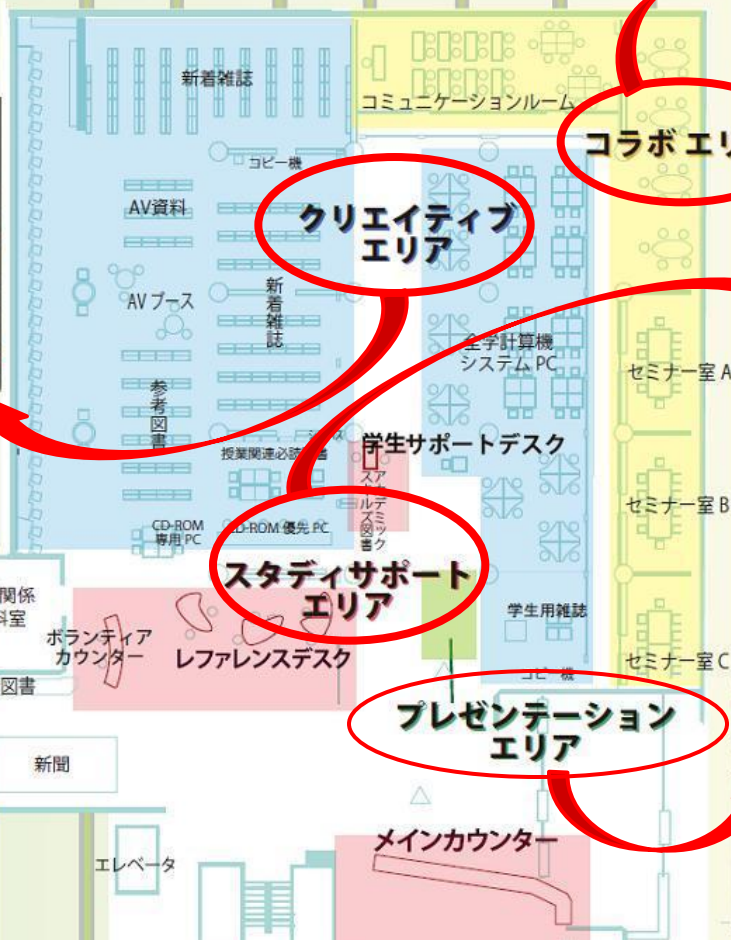
研究個室
（本館3～5階）



ラーニング・スクエアの構成要素

ラーニング・スクエア★ エリアマップ

中央図書館本館 2F



LEARNING SQUARE
OF THE STUDENTS, BY THE STUDENTS, FOR THE STUDENTS!

筑波大学ラーニング・スクエアの運営②

- 学生サポートデスク(後述)
 - 大学院生によるラーニングアドバイザーを配置した「学生サポートデスク」での各種学修支援
- 企画・展示
 - 所蔵資料の利用促進や研究・学習成果発表の活性化(授業・学内プロジェクトとの連携)のための企画・展示
- 授業との連携
 - フレッシュマンセミナー(新入生対象科目)
 - 「知の探検法」(総合科目)
 - 「授業関連必読図書」
- ライティング支援セミナーの試行(後述)

ラーニング・スクエアでの具体的活動

ラーニングアドバイザー



【学生サポートデスク】
各種学修支援

【ブックログ】
学修支援の本棚



ライティング支援

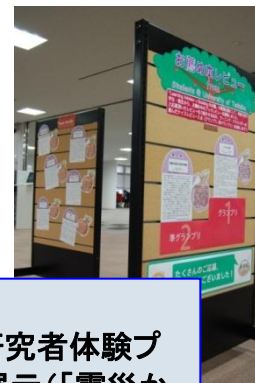
【ライティング支援連続セミナー】
『知識と言葉をめぐる冒険』
教員との連携企画



【アカデミックスキルズ図書】
大学生のための学びの技法
を習得するための参考図書



ポスター展示・企画展示



【プレゼンテーションエリアでの展示】

学修成果のポスター展示(「プレゼンバトル2012」「大学院共通科目紹介」「ARE(先導的研究者体験プログラム)」「サイエンスビジュアルイゼーション演習作品展」)や図書館の蔵書を使った企画展示(「震災から学ぶ本棚」「学修支援の本棚」「お薦め本レビュー」)

筑波大学ラーニング・スクエアの運営③

- ラーニングアドバイザー
 - 大学院生を非常勤職員として雇用(平成26年度は7名)
 - 毎週月～金(14:00～19:00)交代でサポートデスク勤務
- 業務内容
 - 学生サポートデスクでの学修相談
 - ✓ レポート・論文の書き方, プレゼンテーションに関すること
 - ✓ 学内外の論文等, 文献の探し方に関すること
 - ✓ 図書館の活用法に関すること
 - ✓ 館内設置パソコン(全学計算機PC)の操作方法に関すること
 - ✓ その他学習相談に関すること
 - 学修支援の企画立案・実施
- 主な活動
 - 学修支援の本棚ブックログの展示
 - 学園祭での図書館オリエンテーション企画「本の樹海」
 - 図書館小技集(図書館利用のTips)の作成

筑波大学ラーニング・スクエアの運営④

- ライティング支援連続セミナー『言葉と知識をめぐる冒険』
 - 附属図書館研究開発室教員との連携企画
 - 「読むこと」「考えること」「伝えること」など、大学での学びに必要なスキルをテーマ毎に学習できるセミナー
 - 平成23年度から実施。平成25年度からは春季・秋季の2サイクル開催
- プログラム(平成26年度春季)

文書リテラシー

講師:三波千穂美先生(図書館情報メディア系)

■Lesson1 小論文とレポートの違いはわかりますか?

■Lesson2 情報を構造化する

大学で身につけたい言葉の力

講師:島田康行先生(アドミッションセンター)

■Lesson1 疑うことからはじめよう-批判的に読む-

■Lesson2 考えの述べ方-主張の<構造>-

事実?意見?

講師:野村港二先生(教育イニシアチブ機構)

■Lesson1 図表を文章で表現する

■Lesson2 「事実」と「意見」を区別する

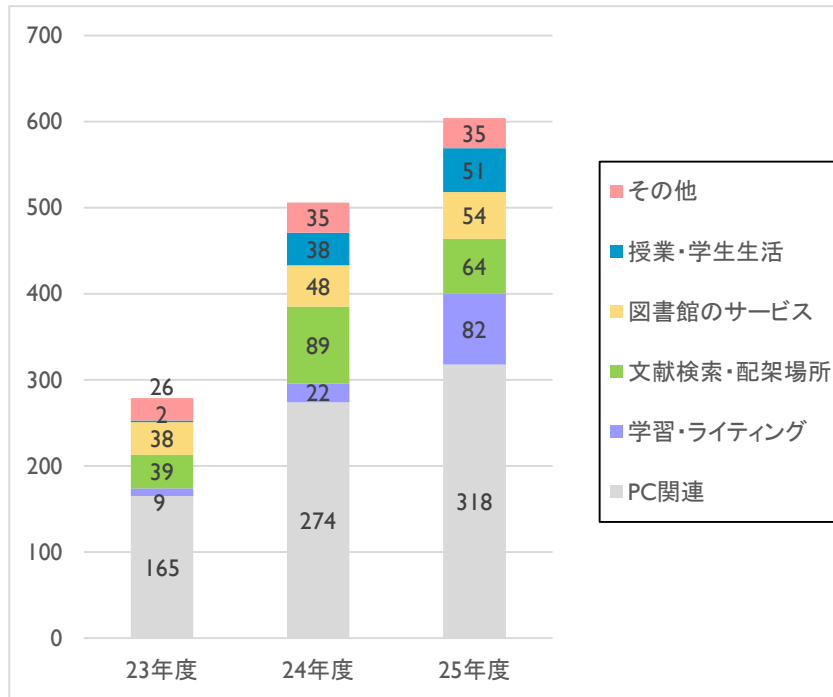
自分を守る「情報リテラシー」

講師:逸村裕先生(図書館情報メディア系)

■Lesson1 情報の山で迷わないために

筑波大学ラーニング・スクエアの運営⑤

1. 学生サポートデスク質問件数



※平成23年9月設置

2. 全学計算機システム利用件数(平成25年度)

設置台数	ログイン回数	1月1台平均	ログイン時間	1月1台平均
101	102,336	84.4	145,931h	120.4h

3. ライティング支援連続セミナー(平成25年度)

回数	14回
人数	194人(学生100人, 大学院生80人, その他14人)

本日の講演の流れ

- ▶ はじめに
- ▶ ラーニング・コモンズの概要
- ▶ ラーニング・コモンズの現状
- ▶ 我が国のラーニング・コモンズ
- ▶ 筑波ラーニングスクエア
- ▶ 今後のラーニング・コモンズを考えるために
- ▶ おわりに

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（1/7）

1. 背景

- 教育スタイルの変化
- 大学教育における質的転換の必要性
- 関連する提言や政策の方向性

2. 学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方

a. 学術情報基盤の意義

b. 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備の現状と課題

i) コンテンツ

- コンテンツの状況・電子化
- 教材・授業等の電子的利活用
- オンライン教育の体制整備
- データの利活用・流通の促進
- 適切なコンテンツの管理と空間の確保

ii) 学習空間

iii) 人的支援

- 専門的人材の育成

学術情報基盤

最新の教育研究成果に基づく書籍、論文、データ、教材等のコンテンツ、それらを流通させるためのシステムや情報ネットワーク及び情報を利活用する際の物理的空間や人的支援を提供する図書館を含む概念であり、知識インフラとして、大学における教育研究活動の根幹を支えるものである。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（2/7）

2. 学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方

c. 更なる学修環境充実のために推進すべき取組

i) 基盤を生かすための教員の意識改革等

ii) 基盤確立のための運営体制の強化

- 図書館の機能強化

- 組織運営体制の見直し

- 大学等の組織間連携による基盤の充実

iii) 教育内容の標準化と効果の分析

- 学修の質保証のための標準化・体系化

- 教育・学習効果の分析・検証

3. 今後の展開における考え方

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（3/7）

2. 学修環境の充実に資する学術情報基盤整備の在り方

b. 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備の現状と課題

- 学修環境充実に関わる学術情報基盤整備については、主に、i) コンテンツ，ii) 学習空間，iii) 人的支援の三つの要素に整理することができ、それらの有機的な連携が重要である。

i) コンテンツ

（コンテンツの状況・電子化）

- 近年、学術雑誌や洋書については電子化が進んでいるが、和書の電子書籍での提供はビジネスモデル構築の必要性などによりあまり進展していない。電子的なコンテンツの増加は、学生に多くの学術書に接する機会を与えることから、関係者が連携して今後一層推進することが望まれる。
蔵書の電子的利活用に関しても、大学が連携して、効果的に取り組む必要がある。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（4/7）

（適切なコンテンツの管理と空間の確保）

○ 図書館におけるコンテンツの整理・効果的な保存は、アクティブ・ラーニングのための空間を確保する上でも、重要な課題であり、海外の大学図書館では、電子書籍の導入や学術情報のデジタル化の促進により、情報資源の効率的な利活用への取組が進みつつある。我が国においても、以下に示す方法などを参考に、取組を検討することが考えられる。

- ① 電子的保存・流通への対応と合わせて、各資料を紙媒体で維持・提供することの必要性
- ② 蔵書を集約化する自動書庫の導入や大学単独もしくは共同で遠隔地に保存書庫の設置
- ③ 大学内における中央図書館と部局図書館，大学外に関しては国立国会図書館を含めた複数の大学図書館の間で，紙媒体の重複保存を抑制するシェアード・プリントの導入

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（5/7）

ii) 学習空間

- ラーニングコモンズに関する整備は進んできているが、その機能については、多様な学習活動に対応可能な空間を用意するとともに各空間の開放性、透明性を高くすることが重要である。熱心に学習している姿が他の学生の学習意欲を刺激し、さらに、教員の教育姿勢に対しても好影響を与え、FDとして寄与する。
- 設置場所については、図書館を中心に設けるのが適切であるが、図書館と連携させつつ、部局等において展開することも想定される。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（6/7）

iii) 人的支援

- 学生による主体的学習の効果を高めるためには、ラーニングコモンズにおいて、空間等の環境整備に加えて、大学院生、図書館員や教員等による学生を支援する体制の構築が不可欠である。学生同士が支援し合うピアチュータリングも、質保証を図りつつ促進することが望ましい。

（専門的人材の育成）

- 図書館の果たす役割の変化に伴い、様々な学修を支援する活動の企画・実施を担当する専門職として、教員や他の職員とも異なる中間職的な人材が必要になる。専門職は教員と図書館員との協力の過程を通じて、図書館員の中から育成されるようなシステムを構築する必要がある。

学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）2013年8月（7/7）

- c. 更なる学修環境充実のために推進すべき取組
- ii) 基盤確立のための運営体制の強化

（図書館の機能強化）

- 学修環境充実において、図書館の効果的活用と機能強化は喫緊の課題である。図書館が教育面でより積極的に関与していく観点から、教材等の資料作成を支援していく体制を構築すべきである。学修環境として刺激的な空間を提供するだけでなく、学内の教員に授業に対する新しいアイデアの構築を促すことも期待される。

何を考えるべきか—発展と定着のために—

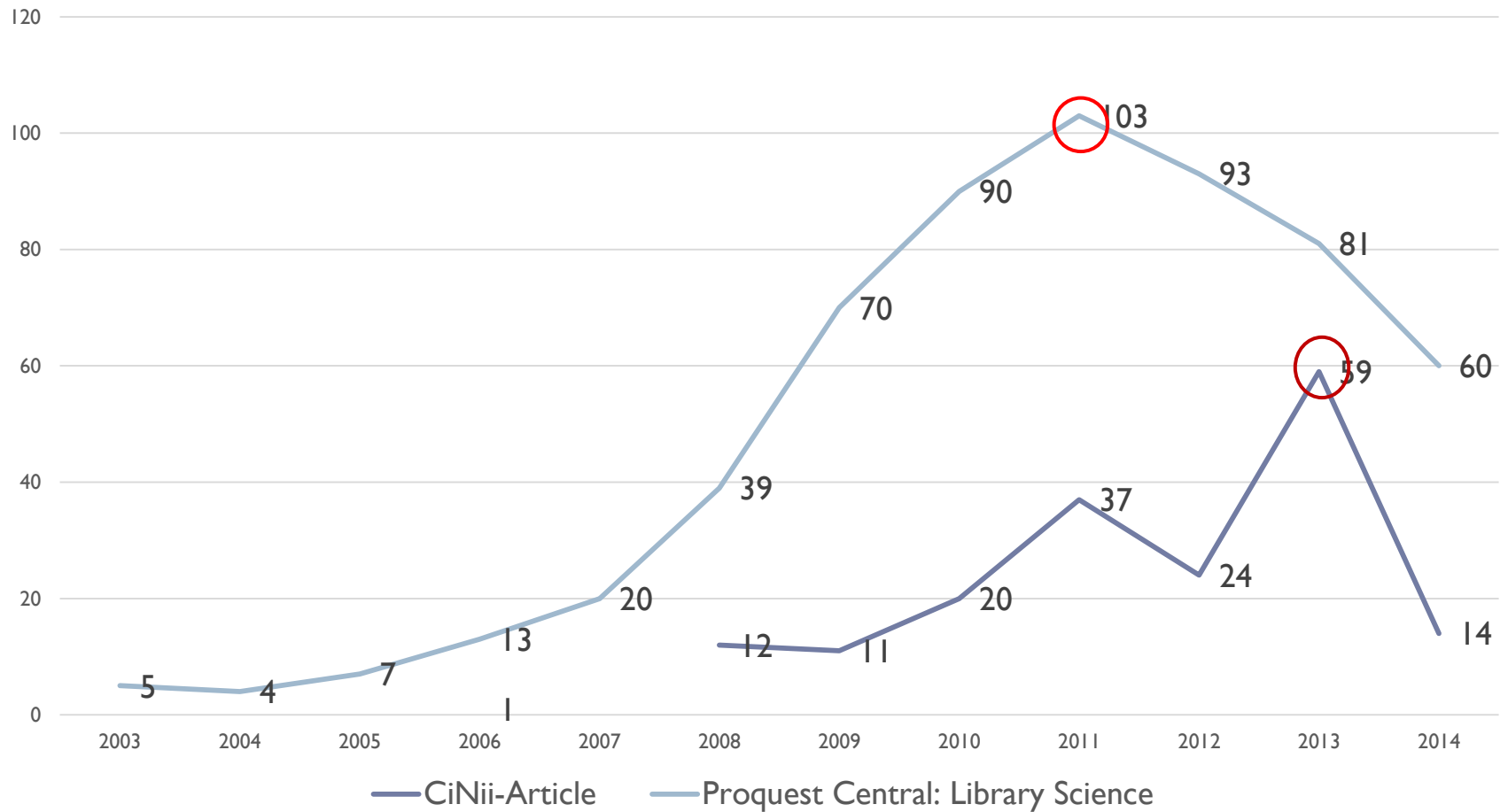
- ▶ ラーニング・コモンズにおける「ラーニング」とは何か
- ▶ 大学の方針を具体化するための大学図書館の学習支援サービスとは何か
- ▶ サービス対象となる学生や学習方法の変化へどのように対応するか
- ▶ ラーニング・コモンズに配置するスタッフの確保と育成をどうするか
- ▶ 場としての図書館の役割は何か
- ▶ ラーニング・コモンズの継続的な改良のために何をするか

参考文献

- ▶ 加藤信哉; 小山憲司編訳. ラーニング・コモンズ : 大学図書館の新しいかたち. 勁草書房, 2012.
- ▶ 米澤誠. 研究文献レビュー: 学びを誘発するラーニング・コモンズ. カレントアウェアネス. No.317, 2013.

<http://current.ndl.go.jp/cal804>

参考：ラーニング・コモンズについての記事数の推移



2014年8月調査

参考：用語

- ▶ maker spaces

協調学習 (collaborative learning) 環境で、それは資料を共有したり、新しいスキルを学習するために人々が集う場である。maker spacesは資料やスペースの特定の組み合わせによって定義されるのではなく、提携、協調及び創造の考え方である。 [The Library as Incubator Project 2013]

- ▶ information commons

- ▶ learning commons

- ▶ learning spaces

参考：評価

▶ 導入効果は利用率だけでは判断できない

「授業外学習が必要とされるアクティブラーニングをどれだけ実施しているか」

▶ 効果測定は、学生の成長への寄与率で

「4年間かけて育てた学生が、卒業する段階で、定性的にも定量的にも成長したことが検証できるか」

▶ 卒業時の効果測定では学生全体の利用率も

「現在は、利用率からの効果の検証をしているタイミングかもしれない」

「いずれは、学生本位の視点に戻って、学生への成長寄与の検証を、卒業時点の調査で、その効果を判断して行くべきものとする」